

ニュースレター No.23

発行：2002年10月

◆ 雑木林塾受講生募集

昨年「育てよう調布の森」を合言葉に環境市民懇談会の新たなプロジェクトとして雑木林の維持管理についての講座が持たれました。富士見地区にあるどんぐり林公園をフィールドとした全6回の講座修了時には地元地区協の方々も参加し、引き続き維持管理作業を行って下さることになりました。雑木林塾としての成果が大変良い形で現れたと言えます。

今年度も10月から3月まで全6回の予定で2回目の講座が開講します。長年放置されてきた身近な雑木林に目を向け、大切な自然を残すための一つの方法として現代における雑木林との新たな関わり方を探って行きたいと思ひます。

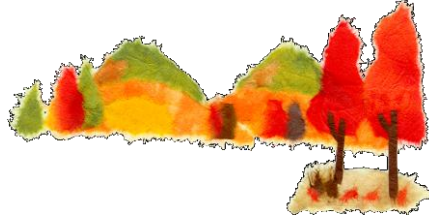
学習のフィールドを布田にあるへび山に移し、笹刈りなどの実作業を中心とし、そのための道具の使い方・安全管理の方法などを学びます。また講師の先生をお呼びして、雑木林の定義・関わり方・利用方法などについて講義を受けながら一緒に考えたり、観察会や簡単な植生調査もします。

講座修了後も修了生の方達が楽しみながら自主的に、市内の雑木林に関わっていく市民活動のきっかけになるような講座にしたいと思ひます。

講座の予定

第1回	オリエンテーション・フィールド観察
第2回	作業安全講座（笹刈り・落ち葉だめづくり等）
第3回	笹刈り・散策路作り
第4回	室内講座（雑木林とは）・ワークショップ
第5回	環境（樹木他）マップ作り・今後の樹林作り計画
第6回	観察会・まとめ

- 定員30名
（申し込み 10/25迄・先着順）
- 申し込み・問合わせ
調布市環境部環境保全課
- 企画・運営：雑木林塾運営会議
連携：ちょうふ環境市民懇談会



● ちょうふの自然

調布の街に住居して45年が過ぎた。改めて周りを見回すと、人口の増加に伴う宅地化による自然の変化、特に緑の少なくなったのに気付いた。居住地近くの電通大もキャンパス内の建物が、木造からコンクリートに、さらに4階が8階にと毎年改築されていく。その度に、緑は確実に少なくなっている。この現象は、深大寺および植物公園の周辺のみならず、市内全域にも明らかにその兆候は現れている。

それを防ぐには農地の確保だけでは追いつかない。それには行政だけに任せず市民の協力が必要だと危惧している時に、「調布市環境モニター」の活動を知った。市民一人一人が市内の「私の気になる木」を集め、その保全に注目することにより、少しでも緑の調布をまもる一助になろうと、この春からこの活動に参加している。（原田）

前回の雑木林塾の様子 (2001/11~2002/3)



都立長沼公園での管理作業体験



実習地(どんぐり林公園)での講義



受講生企画による「雑木林まつり」

←「ちょうふの自然」は、調布の自然を調べている環境モニター活動の参加者の紀行文です。

一 内 容

雑木林塾受講生募集！
調布市内の活動報告
特集「はじめの一步」
イベント情報

調布市内での活動報告！

環境モニター活動

～見どころいっぱいだった西部地域ガイドウォーク～

7月27日は暑い日にもかかわらず、30名を越す参加者がありました。西調布駅に集合して「西光寺」へ。市の文化財に指定されている珍しい門を見学、庭には蓮の花が見事に咲いていて、幸先の良いスタートでした。



その後は第三小学校、凸凹山公園、M 邸跡地、若宮八幡神社と崖線、府中用水、多摩川小学校のピオトープ、稲荷橋児童遊園と崖線、見返りの松、郷土博物館、京王フローラルガーデン、府中用水の地下水の自噴などを見て歩きました。休憩の時に、昭和30年頃の飛田給の田んぼが広がる風景や多摩川などの写真のコピーを回覧したのですが、皆さん興味深く見て好評でした。汗びっしょりでしたが、参加者が多く楽しいウォークでした。



入間・樹林の会 ～方形柵調査～

雨上がりの残暑のなか午前中は前回伐採した樹木を2箇所に整理すべく、更に細かく切断する役と運搬する役にわかれ全員で作業。午後は講師の指導のもとで方形柵調査をしたが、季節の移り変わりが見える結果となり次回の調査では更に顕著になるものと期待されます。作業終了後に行われた打合せ会では近隣の住民にアピールすることが必要だということから、速やかに樹林地内に簡単な通路を作ることと入口近くに案内掲示板を立てようとの意見がありました。

ただ生い茂るにまかせた陽のあたらない荒れ林がみんなの手で変わっていく様を見られることは幸せです。



こどもエコクラブ

春から駅前広場の樹木について調べてきたことを二枚の壁新聞にまとめてみました。



一葉っぱ一枚一枚が大気中の二酸化炭素を吸収して地球温暖化を防いだり、汚染ガスを吸収して空気をきれいにしているー

駅前の一本のクスノキの一年間のCO2の吸収量や、広場全体の樹木（常緑・落葉別）についても計算しました。やっぱり、私たちはCO2の排出量を減らすようエネルギーの使い方を工夫して一人一人が実行するのが一番ということになりました。

そして、駅前広場にはいろいろな形の葉っぱの木があることにもびっくりしました。シラカシのドングリから芽が出て、こどもの木に育っているのもあるのです。

ちょうふ DE 田んぼ日記その 17「みのりの季節がやってきた！」

天高く馬肥ゆる秋、いよいよみのりの季節です。稲のみのりを待ってましたとスズメたちのお出まし。9月15日には受講生も7体の案山子を作ってスズメに対抗です。8月までは害虫を食べてくれていたスズメも、この時期だけはお百姓さんの敵。アイディア盛りだくさんの案山子も道行く人の目を楽しませるばかりで、スズメはどこ吹く風とお構いなし。元来案山子は、田の神を迎えて豊穰を祈り、害を避けようとする神の依代（よりしろ）の人形だったとき。一方、稲刈りの準備として行った水抜きでは、ボウフラ退治のために放流したメダカとモツゴの救出大作戦でてんやわんや。モツゴに混じていたフナが何と25cmにまで成長していたのにはびっくり。メダカは家に持ち帰って観察です。黄金色に輝く田んぼは10月上旬の稲刈りを待つばかり。（受講生兼通信員 中原）



山田の中の本足の案山子
天気がよいのに蓑傘つけて
朝から晩までただ立ちどおし
歩けないのか山田の案山子

特集 何か始めようよ… 「はじめの一步」

ようやくすごしやすい季節となりました。

芸術の秋、スポーツの秋、食欲の秋…と人それぞれ。何か新しいことを始めるにもいい季節です。

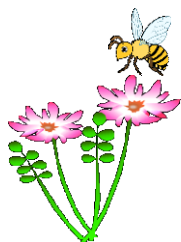
今回は、今年初めて田んぼの学校でお米づくりに挑戦したNさんにインタビューしてきました。

◆ 田んぼの学校に入学しようと思ったきっかけは？

・親の実家が農家で、かねがね農業を体験したいと思っていた。特に米作りに興味があった。

◆ なぜ米作りなのですか？

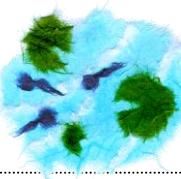
・小学校の時1度だけ田植えを手伝いに行ったことがあった。けどその時は全くといっていいほど役に立てなく、それがくやしくて…。だって毎日食べている米だしね。



◆ そのことがずっと頭にあったんですね。

・他にも、一昨年環境モニターの調査の時、調布には意外に田んぼが多いなあ〜と感じた。反面、田んぼだった場所にどんどんマンションが建っていく様子に「田んぼ存続の危機！」を感じた。

と、おりこうさんの答えだけ、ほんとは「土に接していたい願望」からかな。



◆ 何ですか、それ？

・農耕民族のDNAとでも言うのかな。30代半ばごろから、それがうずき始めた。だから保全云々とか大それた考えはないんだよね。

◆ では、実際体験していかがでしたか？

・自然への感謝の気持ちが大きくなったことと、お百姓さんの苦勞がわかった。活動しているのは土日だけけど、それも天候に左右されて思うように行かない。

けど、太陽と水と土が稲を育ててくれる。自然の恵みをとても感じた。それと田んぼの生物の多様性にビックリした。田んぼ日記にも書いたけど、田んぼの生き物がめまぐるしく変わっていく。生まれて初めてミズカマキリと対面したし、テントウムシの幼虫も見た。とにかく楽しかった。驚きの連続だった。今までの人生の中で1番楽しかったかも…。

◆ 体験を通して、自分の中で何か変化がありましたか？



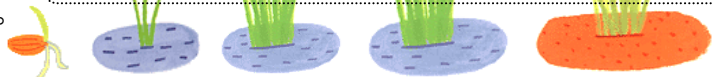
・脱皮をして成長した感じ。自然の中で素直になれる自分を発見できた。「日本人だな〜」って感じた。子どもの頃から米を食べて育った私たちの主食はやっぱり米。けどこれからはパンが主食となる時代が来るのかな。このことをきっかけに、もっと日本人を追究したい。先人たちの考えを知りたいと思っている。



◆ 最後に、みんなにひと言。

・みんな見ているだけでなく、何でも実際やってみたらどうかな。やるいろいろなことが見えてくるし、新しい発見もあって楽しい。もうすぐ稲刈り。11月には収穫祭があるから是非来て下さい。はじめの一步！

次号からレイアウト一新のため「特集」は今回で最後となります。また再開できることを願っています。



グループ紹介 その4

野川・里山探検隊

① 目的

子どもたちが自然と親しむ機会を作り、その中で遊びや体験をすることにより、自然の大切さを認識してもらう。

② 設立の経緯

都市化が進み、子どもたちは自然と親しむ機会が減ってきています。市内にはまだ雑木林・湧水・水田・畑等が残っています。調布の自然に親しみをもち、この自然をまもるには、子どもの時から自然環境に親しむことが必要です。調布の自然環境を知り・学ぶ場としてこの会はできました。

③ これまでの主な活動

春の自然観察・野川と湧水の観察・サマーキャンプなど

④ これからの活動予定

多摩川の鳴く虫観察・秋の雑木林観察・春の七草観察など

⑤ ひと言アピール

この活動は、行政だけではなく、親やボランティアサポーターによって支えられています。子どもたちと一緒に活動してくれるサポーターを募集しています！

⑥ 問合せ先

調布市環境部環境保全課

参加しませんか？

●野川・里山探検隊 サポーター募集！

日 時：10月5日(土) 14:00～19:00
(雨天中止)

集合場所：多摩川市民広場

持ち物：軽食、飲み物、双眼鏡、懐中電灯、虫除けスプレー

服 装：長袖シャツ、長ズボン、靴下、運動靴
要申込み：環境保全課まで(高校生以上)・定員なし
調布の自然に子供達が親しんでもらえるよう、遊びを通して環境学習する場を市では提供しています。子供達の活動をサポートしてくれる高校生以上の方を募集しています。一緒に活動してみませんか。

● 入間・樹林の会 ～管理作業～

日 時：10月20日(日) 9:30～15:00

集合場所：入間地域福祉センター

持ち物：軍手、タオル、飲み物、昼食、虫除け

作業内容：散策路づくり 土止め作業
周辺樹林観察会

◆ 実篤公園自然観察会(湧水篇)

講 師：小豆畑耕一氏(調布市環境保全課)

日 時：10月27日(日) 13:30～15:00

参加費：無料(入場料のみ) 定員：20名

申込〆切：10月13日(日) 必着

実篤公園の池の水源は、今では珍しくなった湧水です。周辺の地形と湧水の仕組みについて解説します。

実篤公園自然観察会 申込方法

往復はがきに希望する講座名(植物篇は希望回も)郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記のうえそれぞれの申込〆切までに実篤記念館へ。(1枚のはがきで、2名まで応募可。但し希望者全員の氏名を記入のこと)

〒182-0003 調布市若葉町1-8-30 電話/03-3326-0648(応募者多数の場合は抽選)

◆次回ニュースレター編集作業◆

日 程	内 容	どなたでも参加できます。
10月21日	編集作業	一緒にニュースレターを盛り上げましょう!
10月28日	発送作業	

場所未定、時間は13時30分から2～3時間程度
事前に環境保全課へお問合せください。

編集後記

ニュースレターも次号でNO.24となり2年を迎えることとなりました。これを機に多くの方に紙面づくりに参加していただけるよう、レイアウトを一新いたします。新しいニュースレター、どんな紙面になるかお楽しみに…。

<会議のスケジュール>

日 時	場 所	活動名/内容
10月7日(月) 18:30～20:30	市役所4階 第4会議室	環境モニター 作業日
10月8日(火) 18:30～20:30	市役所6階 図書室	入間・樹林の会 世話人会
10月15日(火) 18:30～20:30	市役所8階 第8会議室	環境モニター 連絡会
10月17日(木) 18:30～20:30	市役所6階 図書室	環境市民懇談会 連絡会議
10月18日(金) 18:30～20:30	市役所3階 消費者J-ナ	雑木林塾 運営会議

ちょうふ環境市民懇談会では、日常的に情報の交換を行うためにメーリングリストを立ち上げました。

お問合せは尾辻(e-mail: kp5y-otj@asahi-net.or.jp)まで

● 雑木林塾(連続講座1回目)

日 時：10月26日(土) 10:00～15:00

集合場所：市役所8階第8会議室

持ち物：筆記用具

その他：午後はへび山まで徒歩で移動します。

歩きやすい靴で来て下さい。

◆ 実篤公園自然観察会(植物篇)

講 師：富田広氏(東京都多摩教育事務所 指導主事)

日 時：11月9日(土)

1回目:10:00～12:00/2回目:13:30～15:30

参加費：無料(入場料のみ) 定員：各回20名

申込〆切：10月26日(土) 必着

武蔵野の面影残る緑豊かな実篤公園。講師の解説で普段見逃しがちな身近な自然の魅力を見直します。

紙面の都合上詳しい情報を掲載することができません。イベント等の詳細についてはお気軽に下記へお問い合わせください。また、お便りなども受け付けています。

ちょうふ環境市民懇談会は、調布の自然環境を保全・改善・回復していくために、「話し合いの場や、活動の交流・支援、人材育成、啓発活動、情報の収集や発信」といった活動をパートナーシップをもとに進めていくことを目的に設立されました。ぜひ、様々な環境保全活動へ参加してください。

お問合せ先：調布市環境部環境保全課(荒井・倉林)

TEL: 0424-81-7086

E-mail: kankyout@w2.city.chofu.tokyo.jp

発行：ちょうふ環境市民懇談会